

大阪市立矢田西小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学力面では、学校の落ち着きとともに、基礎・基本の定着を図る取組を継続してきたことにより、経年調査等においては、徐々に効果が表れつつある学年もある。しかしながら、まだまだ基礎・基本の定着が不十分な児童も見られる。全国学力・学習状況調査においては、論理的思考力が問われる記述式の問題等で課題が見られるため、4 分位相区分 4 に属する児童の割合が少なくない。家庭学習の習慣化にも課題が残る状況である。

このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、児童の実態に沿ったきめ細やかな指導を継続させていく必要がある。また、児童に基本的生活習慣を定着させるとともに、規範意識をしつかりもたせ、児童の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図る必要がある。

中期目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないとだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **70%以上** にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を、毎年、前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和 7 年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和 4 年度からの **4 年間で 4 ポイント增加** させる。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **40%以上** にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も、**前年度より 0.5 ポイント向上** させる。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **75%以上** にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、**40%以上** にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「週 **1 回以上**」と答える児童の割合を **80%以上** にする。
- ゆとりの日については、週 **1 回以上** 設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は **3 日以上**、夏季休業期間以外の休業期間においては **1 日以上** 設定する。
- 令和 7 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、**80%以上** にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、**85%以上** にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「社会見学や校外活動などの体験的な活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **80%以上** にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **83.1%以上** にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
※不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **90%以上** にする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **56.6%以上** にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.1ポイント** 向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **70%以上** にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **72%以上** にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **74.6%以上** する。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和5年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「週1回以上」と答える児童の割合を **90%以上** にする。
- ゆとりの日については、**週1回以上設定** する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は **3日以上**、夏季休業期間以外の休業期間においては **1日以上設定** する。

学校園の年度目標

- 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、 **90%以上** にする。
- 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、 **75%以上** にする。
- 令和5年度の保護者アンケートの「社会見学や校外活動などの体験的な活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **90%以上** にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

教職員が一丸となり、児童に寄り添って指導を継続してきたので、全市共通目標については目標通り、学校の年度目標については目標を上回って達成することができた。一方、不登校傾向にある児童については、学校だけでは対応しきれない事案もあり、関係諸機関と連携しながら取組を進めてきたが、状態の改善までには至っていない。今後とも保護者や地域、関係諸機関との連携を深化しながら、児童に寄り添った教育活動をさらに充実させていきたい。人権を尊重する教育の推進については、平和学習、人権デー、いじめについて考える日などを中心に取組を進め、人権を尊重する精神が身に付いてきている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

ほぼ目標通り達成することができたが、目標値に到達できなかつた学年もあり、基礎基本の学力が定着していない児童が一定数いることが分かった。算数科を中心に習熟度別少人数指導を充実させることを通して、一定の成果は見られたが、学力の二極化や主体的に取り組む児童がまだまだ少ないなど課題も多い。今後は、低学年からの学習体制のフォローなど、学力アップにつながる支援体制の見直しなどを通して基礎基本が定着できるように取組を進めていきたい。体力の向上については、体育科の学習だけでなく、ランニング集会やなわとび集会、学級遊びなど、体を動かす機会を多く設定し、運動の日常化は概ねできている。今後は、体育科の学習に関する指導方法や教材・教具の工夫、指導計画の検討を行い、さらなる運動能力の向上を図っていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

毎朝の「心の天気」やデジタルドリル「ナビマ」、各教科の学習などで積極的に活用を行ってきたことで、低学年の児童でも、自分で学習者用端末を操作し、利用することができるようになってきている。体験的な活動については、計画通り実施でき、児童の学習意欲の向上が見られた。その他の目標についても達成することができたが、働き方改革については、実施途上であり、保護者や地域の理解も得ながら進める必要があるため、今後も改善を図っていく。また、並行してさらなる人材育成も必要なため、今後も継続して、様々な取組を充実させていきたい。

(様式2)

大阪市立矢田西小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83.1%以上 にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上 にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（いじめへの対応）	
指標：令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83.1%以上 にする。	A
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（不登校への対応）	
指標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（不登校への対応）	
指標：年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	B
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】（人権を尊重する教育の推進）	
指標：年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上 にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎…成果・取組内容

◆…課題

☆…次年度への改善策

取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(いじめへの対応)

指標：令和 5 年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **83.1%以上** にする。

結果 **83.6%**

◎・いじめが起きないように教職員が一丸となり指導を続けている。

- ・毎日、タブレットに心の天気を入力させ、児童に心の状態の把握に努めている。
- ・毎学期いじめのアンケートを実施するなど、児童の状況の把握に努めている。
→気になる回答があれば各担任がすばやく対応し、早期の解決に努めている。
- ・毎月の職員会議や現状報告会等で課題のある児童や配慮が必要な児童について共通理解を図っている。
- ・日々の看護当番や専科や特別支援の担当が学年に関わることで複数の教員の目で児童をみるようにしている。
- ・道徳科や人権デーの取り組み等を通して、児童のいじめは絶対にいけないという意識が高まっている。

◆・学校外でのトラブル(下校後の公園での遊び方など)があり、対応を学校に求めてくる保護者が多い。

- ・中学生との関わりが増え、ルールを守れない児童や他人の気持ちを考えずに行動している児童もいる。

☆・学校全体で児童の様子をしっかりと観察し、声かけをする。

- ・教師のアンテナを高くはっておき、いじめにつながる発言や行動はその場で指導する。
- ・児童をほめたり、認めたりする機会を増やす。
- ・保護者と連携・協力する。(トラブルは、保護者が責任をもって対応する)
- ・今後も、道徳科等でいじめについて考える機会を設け、継続的に指導していく。
- ・中学校とも連携して、指導を進めていく。

取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(不登校への対応)

指標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

(**2022年度8人→2023年度6人**)

- ◎・児童の学習や生活に対する不安を解消するため保護者と連絡をとったり、家庭訪問をしたりして状況の把握、改善に努めている。
- ・欠席が続いた後、登校しやすいように日々の学習課題や手紙等の配布物を家庭まで届けたり、学校の様子を伝えたりしている。
 - ・同和教育推進担当教師を中心に担任以外の先生からも当該児童や保護者にアプローチすることで、新たに不登校になる児童を出さないように努めている。
 - ・教務主任や同和教育推進担当教師が毎朝全学級を回り、登校できていない児童を確認し、電話連絡や家庭訪問をすることで、不登校になる可能性を未然に防ぐようにしている。
 - ・スクールカウンセラーの先生や生活指導支援員とも連携し、様々な角度からアプローチしている。
 - ・不登校児童に対して、管理職も含め複数の教職員で関わり、対応できている。

- ◆・非協力的な保護者の家庭は対応が難しい。
 - ・保護者の協力が必要(染髪、遅刻、忘れ物など)
 - ・学校まかせにしている保護者もいて、教職員の負担も大きい。

- ☆・継続して当該児童、保護者にアプローチする。
 - ・毎月の職員会議や現状報告会等で共通理解を図る。
 - ・非協力的な家庭に対して、行政などと連携し多方面からアプローチする。
 - ・不登校児童の実態に合った安心・安全な居場所づくりを進める。

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(不登校への対応)

指標：年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

- ◎・児童の学習や生活に対する不安を解消するため保護者と連絡をとったり、家庭訪問をしたりして状況の把握、改善に努めている。
 - ・欠席が続いた後、登校しやすいように日々の学習課題や手紙等の配布物を家庭まで届けたり、学校の様子を伝えたりしている。
 - ・同和教育推進担当教師を中心に担任以外の先生からも当該児童や保護者にアプローチすることで、新たに不登校になる児童を出さないように努めている。
 - ・カウンセラーの先生や生活指導支援員の力も借り、様々な角度からアプローチしている。
 - ・不登校児童に対して、管理職も含め複数の教職員で関わり、対応できている。

◆・非協力的な保護者の家庭は対応が難しい。

- ・学校まかせにしている保護者もいて、教職員の負担も大きい。

- ☆・継続して当該児童、保護者にアプローチする。

- ・毎月の職員会議や現状報告会等で共通理解を図り、学校全体で関わりをもつ。
- ・不登校に関して、学校だけでなく各関係機関、行政等を積極的に活用し、サポート体制を強化する。
- ・不登校児童の実態に合った安心・安全な居場所づくりを進める。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】(人権を尊重する教育の推進)

指標：年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

結果 100%

- ◎・年間を通して、道徳科や総合的な学習の時間等を活用し、全学年で人権デーや平和学習に取り組み、人権を尊重する心と態度や平和な社会の実現に向けて、ひとりひとりが考えることができた。
 - ・1学期に各学年1時間以上の平和学習に取り組んだり、夏季休業中ではあるが8月6日に合わせて平和登校日を設定したりと全学年で平和学習を行うことで、反戦・平和への思いが高まった。(今年度は、8月4日に実施)
 - ・「いじめについて考える日」に合わせて、学校全体でいじめは許されないことであることを再認識できた。

- ◆・まれだが、休み時間等に周りの人の心を傷つけかねない言葉を聞くことがある。また、放課後の遊びやゲームの中では、暴力的な言葉が増える傾向にある。
 - ・夏休み中ということもあり、平和登校日の参加率が低かった。また、8月1週目は暑さがかなり厳しく、登下校の時間だけでも児童の体調が心配である。
- ☆・日々の生活の中で、周りの人の心を傷つけかねない言動に対して声かけや指導を行い、相手を思いやる心や言葉の重みについて理解できるようにする。また、児童だけでなく保護者も含めて啓発を行う。
- ・矢田地域の取り組みなので簡単には変更できないが、1学期中に平和登校日と同じような内容の学習を実施するよう検討する。

大阪市立矢田西小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 56.6%以上 にする。	
○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント 向上させる。	B
○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上 にする。	
○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上 にする。	
○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 74.6%以上 にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)	B
指標：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 56,6%以上 にする。	
取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (言語活動・理数教育の充実)	B
指標：小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1ポイント 向上させる。	
取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (理科教育の強化)	B
指標：小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上 にする。	
取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (英語教育の強化)	B
指標：小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上 にする。	
取組内容⑨【基本的な方向5 健やかな体の育成】 (体力・運動能力向上のための取組の推進)	B
指標：小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 74,6%以上 にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎…成果・取組内容 ◆…課題 ☆…次年度への改善策

取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

(「主体的・対話的で深い学び」の推進)

指標：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **56.6%** 以上にする。

結果 51.1%

◎・主体的、対話的な学びを日々の授業の中で実施し、学力の向上を目指している。

- ・子どもが主体的に学べるようなめあてや、課題を用意することで、主体的に学ぼうとする子が増えた。
- ・各学年、話し合い活動を中心に授業を進めたことで、考えが深まったり新たな考えが生まれたりするようになりつつある。また、学習以外でも、子ども同士がつながるような場面が増えた。

◆・主体的に学べる子どもが増えているが、考えを書くことが苦手な子どももいる。

- ・話し合い活動では、ペアやグループでの話し合いはできるようになってきたが、考えを共有したり考えを深めたり広げたりできる子は少ない。
- ・自分の考えをノートなどに書くことはできているが、発表したり、友だちに伝えたりするのが苦手な子どももある。

☆・今後も様々な授業の中で子どもが主体的に学び、対話することで、自分の考えを深めたり広げたりする活動の場をつくりながら、基礎基本の定着も図っていく。

取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(言語活動・理数教育の充実)

指標：小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.1 ポイント** 向上させる。

◎・3年生以上では、習熟度別・少人数学習を行い、個に応じた学習に取り組んでいる。

・学習内容と学年の実態を考慮し、一斉授業でチームティーチングの形で進めたり、単元ごとに少人数学習の担当を変更したりするなど、担任や習熟度担当等が連携を図り、実態に応じて学習形態を工夫している。

◆・少人数学習、チームティーチング成果はあるものの、2分割では母体が大きいため習熟度別学習の良さが發揮しにくい。

・低学年から学習の定着の差がある。

・学習用具が揃っておらず、学習に取り組む環境が整っていないことがある。

☆・学習用具は忘れた児童や用意できない児童に貸し出ししているが、各家庭で用意してもらえるように保護者にも啓発していく。

・学習の定着が難しい児童や欠席が続いた児童に対して、休み時間や放課後を使ってフォローする体制づくりが必要である。

・放課後の時間は限りがあるため、校時を変更して下校時間を早める等の工夫をする。

・指導力向上のため教材研究や研修を受ける時間を十分に確保する。

取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科教育の強化)

指標：小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **70%以上** にする。

結果 **72%**

◎・実験や観察など体験的な活動を通じて、主体的に学ぼうとする態度が育ってきた。

- ・問題解決のためにできるだけ実験や観察を取り入れ、児童が予想や考察に時間を持って考えることができるようになった。その結果、意欲的に理科の授業に取り組む児童が増えた。
- ・理科特別授業を実施した。内容も良く、アンケート結果では、大多数の児童が楽しく興味が持つことができたと答えていた。
- ・カラーの単元末テストは、児童からは写真がわかりやすいと好評である。

◆・必要な理科用語を、覚えなければいけないということに苦手意識を持っている児童がいる。

☆・効果的にICT機器を取り入れた授業を展開するなど、授業を工夫することで理科に興味を示す児童を増やすことに努める。

取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語教育の強化)

指標：小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **72%以上** にする。

結果 **74%**

◎・視聴覚教材(DREAM、絵本、CD、DVD等)を活用し、全学年で週2回のモジュール学習を行った。

- ・年間計画(3年生以上)に基づき、C-NETを活用した授業に取り組んだ。
- ・モジュール学習や外国語活動、外国語科の学習では、指導の工夫をすることで意欲的に取り組むことができる児童が多い。
- ・高学年では、「聞くこと」や「話すこと」を中心に取り組むことに加えて、「書く」力を伸ばすことにも取り組んでいく。
- ・スムーズに中学校へ接続するために、専科としての中学校の教員による授業を実施できた。

◆・学年が上がるにつれ、より専門的な知識が必要となってくるので、学級担任だけでは指導が難しいと感じることもある。

- ・音声の指導は、デジタル教科書を使い、正しい発音を聞かせているがあいさつや簡単なコミュニケーションなど担任の英語を聞かせる機会も多々あるため、正しい発音ではないことに不安がある。
- ・アクティビティなどの活動的学習は、ほとんどの児童が肯定的に取り組めるが、テストや英語を書く活動では苦手意識をもつ児童も多い。

☆・指導法の共有や研修を受けられる時間を確保し、指導力の向上に努める。

- ・個に応じた学習ができるようにナビマなどのデジタル学習教材も活用していく。

取組内容⑨【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（体力・運動能力向上のための取組の推進）

指標：小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **74.6%以上** にする。

結果 **80.4%**

- ◎・課題をスマールステップに設定することで、子どもたちが主体的に活動することができている。コロナが収束し、規制がなくなったので、児童の活動時間は増えている。
 - ・運動に関する取り組みを学期に一回実施することができ、様々な領域に楽しく取り組め事ができた。
 - ・「なわとび」や「かけ足」の集会を実施することができ、寒くなる時期にも体を動かすことができた。また、ランニングカードや縄跳びカードを活用したことで、さらに意欲的に取り組むことができた。
 - ・授業の課題をスマールステップに設定し、進めていくことで、子どもたちが主体的に活動することができている。苦手な児童も体を動かすことの楽しさを感じられるようにしている。
 - ・休み時間に児童と一緒に体を動かす教員が多く、運動の楽しさを感じている児童が多い。
- ◆・運動が苦手な児童への支援。
 - ・運動用具や補助の器具を増やし、楽しんで取り組める活動を増やしていきたい。
 - ・体を動かすのが好きな児童が多いが、苦手な児童もいる。
- ☆・毎年、可能範囲内で補助器具を少しずつ購入する。
 - ・もっと意欲的にさせるために、代表委員会や運動委員会などで企画を考え、運動が好きな児童を増やす。
 - ・苦手と思っている児童が好きになるように体育や休み時間に一緒に遊ぶ等取り組んでいく。
 - ・「体力・運動能力向上」にむけて具体的な指標があるとわかりやすい。
 - ・運動の目的を明確にし、学年や能力に応じた遊びも取り入れていく。

大阪市立矢田西小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○令和5年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「週1回以上」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、90%以上にする。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。</p> <p>○令和5年度の保護者アンケートの「社会見学や校外活動などの体験的な活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑩【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 (I C Tを活用した教育の推進)	B
指標：令和5年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「週1回以上」と答える児童の割合を90%以上にする。	B
取組内容⑪【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 (働き方改革の推進)	B
指標：ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。	B
取組内容⑫【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 (教員の資質向上・人材の確保)	B
指標：年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、90%以上にする。	B
取組内容⑬【基本的な方向8 生涯学習の支援】(学校図書館の活性化)	B
指標：令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。	B
取組内容⑭【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 (教育コミュニティづくりの推進)	A
指標：令和5年度の保護者アンケートの「社会見学や校外活動などの体験的な活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎…成果・取組内容

◆…課題

☆…次年度への改善策

取組内容⑩【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】

（ICTを活用した教育の推進）

指標：令和5年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「週1回以上」と答える児童の割合を90%以上にする。

結果 94%

- ◎・一人一台端末を調べ学習やデジタルドリル等の自学自習に活用することができている。また、前年度より引き続き「心の天気」の入力を実施している。
- ・パワーポイントを使ってのまとめ学習に取り組むことができた。
- ・体育では動画を撮影し、自分の姿を見て改善につなげることができた。
- ・児童用のデジタル教科書やコンテンツを活用することができた

◆・学習を助けるツールとしては、調べ学習程度にとどまっており活用しきれていない。

- ・低学年の使用頻度
- ・電源が入らなかつたりWi-Fiがつながらなかつたりすることがある
- ・心の天気確認する余裕がない

☆・調べ学習だけではなく、学習した内容のまとめや共有など活用の幅を広げていく。

- ・予備の端末を充実
- ・持ち帰りや自主学習などに活用する
- ・教室環境の改善
- ・特別支援学級の児童に限らず、個別の学びができるように課題を設定できるようにする
- ・ドリルやゲームに取り組む際は、「何に」「どう取り組むか」を明確に指示する

取組内容⑪【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（働き方改革の推進）

指標：ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

ゆとり週1回、学校閉庁日 夏5日 冬4日

- ◎・学校閉庁日は夏季休業中に5日間、冬季休業中に4日間を取り、昨年度よりいずれも1日多く取ることができた。また、ゆとりの日についても1年通して週1回設定することができた。
- ・スクールサポートスタッフによる補助、教科専科や支援担当の教諭が授業を受け持つことで、業務量が分散することができ、児童と関わることができる時間が増えた。
- ・数年前に比べると、ほとんどの教職員の帰る時間が早くなっている。

◆・ゆとりの日が設定されても、業務量が減るわけではない。

- ・ゆとりの日に打ち合わせが入るなど、ゆとりの日の共通理解ができていない。

☆・時間だけでなく、行事や業務内容も精査し、効率化できる点を考えていく。

取組内容⑫【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

(教員の資質向上・人材の確保)

指標：年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、**90%以上**にする。

結果 **89%**

- ◎・3本の校内研究授業と討議会、教職員研修など計画通り進めることができ授業力向上につながった。
 - ・メンターを中心に研修を企画し行うことができた。そこでは、自分や他の先生方の授業を振り返ることができ授業力向上につながった。また、研修の内容も実践的なものが多く、日々の授業作りの参考にもなった。
- ◆・今後の校内研修の計画の見直し
 - ・一人一授業のフォローの仕方
 - ・研究授業時の自習時間へのサポート
 - ・令和6年度からアレルギー対応が変更になるため、教職員間での共有がいる。
- ☆・学習指導向上の研修の計画をする。
 - ・研究授業の時は、担当クラス以外は5時間目までとし、研修の時間を確保する。

取組内容⑬【基本的な方向 8 生涯学習の支援】(学校図書館の活性化)

指標：令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、**75%以上**にする。

結果 **82%**

- ◎・図書室の開放やイベントなどを企画し、子どもたちが楽しんで本を読めるようにしている。イベント開催中は、図書室に足を運ぶ児童が多くみられ、読書意欲を高めることができた。
 - ・週一回、図書室の使える時間を配当し、金曜日の朝の読書タイムも設定して、時間の保障をしている。
 - ・各学級で学級文庫や図書室を活用して、たくさんの本に触れる機会をもつことができた。・週一回の図書の時間が確保して、児童は毎週本を借りている。
- ◆・読書に対して苦手意識をもつ児童や、楽しさを見出せない児童は、すすんで読書を行っていない。
 - ・子どもたちがどんな本を読んでいるかを、指導者が把握できていないこともある。
 - ・図書室がクラスの校舎から遠い。
 - ・家庭で本を読んでいる様子は見受けられない。子どもだけでなく、大人の読書離れも問題になっている。
- ☆・お話し会や学年にあった本の紹介など、読書が好きになる取り組みを充実させる。
 - ・図書室内の本の場所を、ジャンルごとに分かりやすく提示する。
 - ・調べ学習で図書室を活用する機会を増やす。
 - ・保護者に読書の様子を伝えるため、活動の様子をホームページや図書だよりで知らせる。

取組内容⑭【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

(教育コミュニティづくりの推進)

指標：令和5年度の保護者アンケートの「社会見学や校外活動などの体験的な活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **90%以上** にする。

結果 94%

- ◎・計画どおり社会見学や校外学習を実施することができた。事前、事後学習を行うことで、児童の意識は高まり学習の定着につながった。
- ◆・活動後の反省から、さらに次年度の活動につなげていくことが必要である。
 - ☆・毎年やっているからではなく、児童の実態に応じて内容を考えていく。
 - ・実施後の反省を残しておき、改善点は次年度にしっかりと伝えていく。

令和 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西小学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 学校が一丸となって取り組み、子どもたちを大切に育んでいることがよく伝わった。
- さまざまな問題を教職員や管理職が連携して取り組めていて、問題改善につながっていると思う。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和 5 年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **83.1% 以上** にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

※不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **90%以上** にする。

- ・不登校児童への対応、状況の改善はなかなか難しいかもしれないが、教職員が一丸となって今度とも対応をお願いしたい。

年度目標：【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **56.6%以上** にする。

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.1 ポイント** 向上させる。

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **70%以上** にする。

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **72%以上** にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **74.6%以上** に

する。

- ・学校は十分に努力してくれているが、目標を下回っている学年もあるので、地域としてはさらなる学力・体力の向上を期待する。現状に満足することなく、今後とも継続して指導にあたってもらいたい。

年度目標：【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和5年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「週1回以上」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

学校園の年度目標

- 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、90%以上にする。
- 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。
- 令和5年度の保護者アンケートの「社会見学や校外活動などの体験的な活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- ・体験活動については今度とも地域としても協力できることは協力していきたい（田植え・稲刈り体験、田辺大根の栽培など）。学校としても、体験を行う学年、学級の担任を中心に積極的に関わってもらいたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 今後とも地域と密着した運営をお願いしたい。
- 中学校との共通の課題について連携を深めて取り組んでほしい。
- コロナ禍で中止になっていた行事などをコロナ前の形で取り組んでもらいたい。